

平成 3 0 年度連携排砂計画（案）について

○連携排砂実施計画	1
○平成 2 9 年度 連携排砂計画	2
○平成 3 0 年度 連携排砂計画（案）	3
○平成 3 0 年度 連携排砂前の出し平ダム堆砂形状	4
○平成 3 0 年度 出し平ダム排砂予測（自然流下を継続した場合の排砂量・時間）	6
○平成 3 0 年度 出し平ダム排砂量に対する想定変動範囲について	1 0
○平成 3 0 年度 出し平ダム目標排砂量と過去の実績排砂量の比較	1 1
○平成 3 0 年度 連携排砂前の宇奈月ダム堆砂形状	1 2
○平成 3 0 年度 宇奈月ダム排砂予測（自然流下を継続した場合の排砂量・時間）	1 3
○平成 3 0 年度 連携排砂における S S 値の予測	1 6
○平成 3 0 年度 連携排砂における各ダムの運用について（模式図）	1 7
○平成 3 0 年度 排砂・通砂時の実施体制	1 8
○【参考】過年度排砂計画及び実績一覧表	1 9
○【参考】宇奈月ダムの治水容量	2 3

連 携 排 砂 実 施 計 画

項 目	排 砂		通 砂	
	出し平ダム	宇奈月ダム	出し平ダム	宇奈月ダム
(1) 時期	・ 6月～8月でダム流入量が、出し平ダムで 300m³/s、宇奈月ダムで 400m³/s のいずれかを上回る最初の出洪水時に実施。 ・ 但し、上記期間のうち、融雪や梅雨等により流量の大きい時期に限り、出し平ダム流入量が 250m³/s に達した場合においても実施する。なお、自然流下中の流入量が 130m³/s を下回った場合は中止する。		・ 6月～8月で排砂後のダム流入量が、出し平ダムで 480m³/s、宇奈月ダムで 650m³/s のいずれかを上回る出洪水時にその都度実施。	
(2) 排砂量	・ 貯水池内の一定の堆砂形状をできるだけ維持するため、それ以上に堆積した土砂。		・ 自然の出洪水流を排砂ゲートを用いてその都度流下させる。	
(3) 方法	・ 自然流下方式		・ 同左	
(4) 時間	・ 貯水池内の一定の堆砂形状をできるだけ維持するため、それ以上に堆積した土砂の排出に必要な自然流下時間。		・ 宇奈月ダム自然流下時間内に完了	・ 自然流下時間 1 2 時間以内
(5) 排砂・通砂前の措置	・ 出洪水の初期（ダム水位が高い）段階から排砂ゲートを開ける運用とする。	・ 出洪水の調節の後期（ダム水位が高い）段階から水位低下操作運用とする。	・ 同左	
(6) 排砂・通砂後の措置	・ 排砂後 2 4 時間は原則として発電取水を停止し、ダム流入量をそのまま放流する。	・ 排砂後 2 4 時間はダム流入量をダムおよび宇奈月発電所から放流する。	・ 通砂後 1 2 時間は、ダム流入量をダムおよび下流発電所から放流する。	

【特記事項】

1. 上記の排砂条件を満足する出洪水の発生がない場合を想定して、土砂変質の進行を抑制するため、その方法について協議していくこととする。
2. 大規模な土砂の流入等、不測の事態が発生した場合、また発生が予想される場合については、その対応について適宜協議していくこととする。
3. 連携排砂の実施方法については、連携排砂実施による知見の集積に伴い、必要に応じて改善していくものとする。

平成 29 年度連携排砂計画

項 目	排 砂		通 砂	
	出し平ダム	宇奈月ダム	出し平ダム	宇奈月ダム
(1) 時期	・ 6 月～8 月でダム流入量が、出し平ダムで 300m³/s、宇奈月ダムで 400m³/s のいずれかを上回る最初の出洪水時に実施。 ・ 但し、上記期間のうち、融雪や梅雨等により流量の大きい時期に限り、出し平ダム流入量が 250m³/s に達した場合においても実施する。なお、自然流下中の流入量が 130m³/s を下回った場合は中止する。		・ 6 月～8 月で排砂後のダム流入量が、出し平ダムで 480m³/s、宇奈月ダムで 650m³/s のいずれかを上回る出洪水時にその都度実施。	
(2) 排砂量	・ 目標排砂量約 9 万 m³ (平成 28 年 7 月～29 年 5 月の堆砂量) ※ 2 ・ 想定変動範囲約 1 万 m³ ～約 1 7 万 m³ ※ 3	・ 目標排砂量は、設定しない。	・ 自然の出洪水流を排砂ゲートを用いてその都度流下させる。	
(3) 方法	・ 自然流下方式		・ 自然流下方式	
(4) 時間	・ 宇奈月ダム自然流下終了までに完了(自然流下時間 12 時間以内) ※ 6	・ 自然流下時間 12 時間以内	・ 宇奈月ダム自然流下終了までに完了 ※ 6	・ 自然流下時間 12 時間以内
(5) 排砂・通砂前の措置	・ 出洪水の初期(ダム水位が高い)段階から排砂ゲートを開ける運用とする。	・ 出洪水の調節の後期(ダム水位が高い)段階から水位低下操作運用とする。	・ 同左 ※ 7	
(6) 排砂・通砂後の措置	・ 排砂後、宇奈月ダムの排砂後の措置に必要な水容量が確保されるまでは、原則として発電取水を停止し、ダム流入量をそのまま放流する。 ※ 4 ※ 5	・ 排砂後、ダムから 300m³/s 程度を一定時間(最低 3 時間)放流する。 ※ 4	・ 通砂後、宇奈月ダムの通砂後の措置に必要な水容量が確保されるまでは、ダム流入量をダムおよび下流発電所から放流する。 ※ 4 ※ 5	・ 通砂後、ダムから 300m³/s 程度を一定時間(最低 3 時間)放流する。 ※ 4
(7) 土砂変質進行抑制策	・ 上記の排砂条件を満足する出洪水の発生がない場合は、9 月 1 日から 9 月 2 日の間に土砂変質進行抑制策を実施する。			

【特記事項】

- 大規模な土砂の流入等、不測の事態が発生した場合、また発生が予想される場合については、その対応について適宜協議していくこととする。
- 出し平ダムにおける目標排砂量については、当該年の排砂実施期間前の 5 月測量をもって決定する。なお、5 月測量後に 5 月出水として既往最大規模程度の出水が発生した場合は、当面の間再測量を実施する。また、目標排砂量については、再測量結果がまとまるまでの間は 5 月測量結果による目標排砂量を暫定値として取り扱う。
- 過去の SS 変動量より想定される排砂量の変動範囲。なお、1,000m³/s クラス以上の大出水や、二山波形等の稀な出水は、対象としていない。
- 排砂・通砂後の措置については、当面の間、本文記載の方法で実施するものとする。
- 出し平ダムの排砂・通砂後の措置は、最低 3 時間実施するものとする。なお、宇奈月ダムの排砂・通砂後の措置中に宇奈月ダム下流の発電所から放流を行う場合は、愛本合口堰堤の取水に影響を与えないよう配慮するものとする。
- 両ダムの自然流下時間について重複時間を設けることを原則とするが、流況により、宇奈月ダム自然流下開始前に出し平ダム自然流下が完了できるものとする。
- 平成 29 年度については、ダム流入量が出し平ダム 300m³/s、宇奈月ダム 400m³/s のいずれかを上回る出水があった場合、細砂通過放流を試験的に実施することができる。この場合、両ダムとも貯水位を高水位で保持したまま、出し平ダムは主に排砂ゲート、宇奈月ダムは出洪水の調節完了後、水位低下用ゲートを開ける。なお、細砂通過放流において通砂実施基準流量に達しない場合の終了は、ダム流入量及びダム下流の濁度等を勘案し、実施機関で適宜判断する。また、細砂通過放流中において通砂実施基準流量を上回る流量に達した場合には、従来の通砂に移行できるものとする。

平成 30 年度連携排砂計画（案）

項 目	排 砂		通 砂	
	出し平ダム	宇奈月ダム	出し平ダム	宇奈月ダム
（１）時期	・ ６月～８月でダム流入量が、出し平ダムで 250m³/s、 宇奈月ダムで 400m³/s のいずれかを上回る最初の 出洪水時に実施。 ・ 但し、 上記期間のうち、融雪や梅雨等により流量の大きい時期に限り、出し平ダム流入量が 250m³/s に達した場合においても実施する。なお、自然流下中の流入量が 130m³/s を下回った場合は中止する。		・ ６月～８月で排砂後のダム流入量が、出し平ダムで 480m³/s、宇奈月ダムで 650m³/s のいずれかを上回る出洪水時にその都度実施。	
（２）排砂量	・ 目標排砂量約 1 6 1 万 m³ (平成 28 年 7 月～29 年 12 月の堆砂量) ※ 2 ※ 8 ・ 想定変動範囲約 1 0 0 万 m³ ～約 1 6 1 万 m³ ※ 3	・ 目標排砂量は、設定しない。	・ 自然の出洪水流を排砂ゲートを用いてその都度流下させる。	
（３）方法	・ 自然流下方式		・ 自然流下方式	
（４）時間	・ 宇奈月ダム自然流下終了までに完了(自然流下時間 12 時間以内) ※ 6	・ 自然流下時間 12 時間以内	・ 宇奈月ダム自然流下終了までに完了 ※ 6	・ 自然流下時間 12 時間以内
（５）排砂・通砂前の措置	・ 出洪水の初期(ダム水位が高い)段階から排砂ゲートを開ける運用とする。	・ 出洪水の調節の後期(ダム水位が高い)段階から水位低下操作運用とする。	・ 同左 ※ 7	
（６）排砂・通砂後の措置	・ 排砂後、宇奈月ダムの排砂後の措置に必要な水容量が確保されるまでは、原則として発電取水を停止し、ダム流入量をそのまま放流する。 ※ 4 ※ 5	・ 排砂後、ダムから 300m³/s 程度を一定時間(最低 3 時間)放流する。 ※ 4	・ 通砂後、宇奈月ダムの通砂後の措置に必要な水容量が確保されるまでは、ダム流入量をダムおよび下流発電所から放流する。 ※ 4 ※ 5	・ 通砂後、ダムから 300m³/s 程度を一定時間(最低 3 時間)放流する。 ※ 4
（７）土砂変質進行抑制策	・ 上記の排砂条件を満足する出洪水の発生がない場合は、９月１日から９月２日の間に土砂変質進行抑制策を実施する。			

【特記事項】

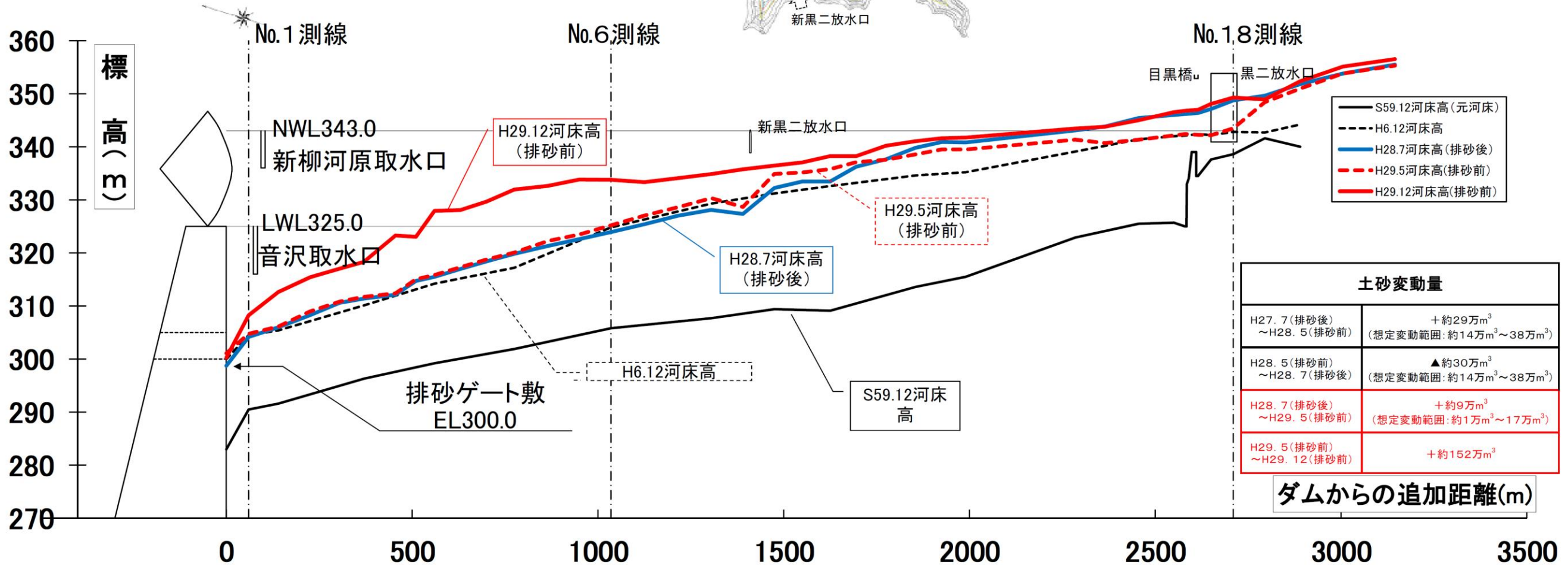
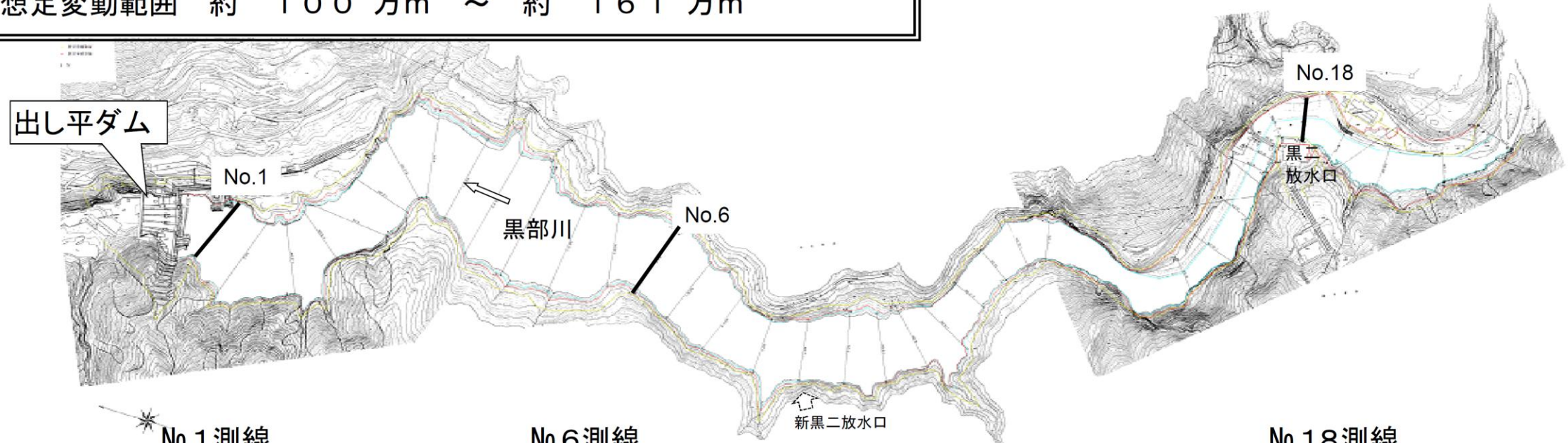
1. 大規模な土砂の流入等、不測の事態が発生した場合、また発生が予想される場合については、その対応について適宜協議していくこととする。
2. 出し平ダムにおける目標排砂量については、当該年の排砂実施期間前の 5 月測量をもって決定する。なお、5 月測量後に 5 月出水として既往最大規模程度の出水が発生した場合は、当面の間再測量を実施する。また、目標排砂量については、再測量結果がまとまるまでの間は 5 月測量結果による目標排砂量を暫定値として取り扱う。
3. 過去の SS 変動量より想定される排砂量の変動範囲。なお、1,000m³/s クラス以上の大出水や、二山波形等の稀な出水は、対象としていない。
4. 排砂・通砂後の措置については、当面の間、本文記載の方法で実施するものとする。
5. 出し平ダムの排砂・通砂後の措置は、最低 3 時間実施するものとする。なお、宇奈月ダムの排砂・通砂後の措置中に宇奈月ダム下流の発電所から放流を行う場合は、愛本合口堰堤の取水に影響を与えないよう配慮するものとする。
6. 両ダムの自然流下時間について重複時間を設けることを原則とするが、流況により、宇奈月ダム自然流下開始前に出し平ダム自然流下が完了できるものとする。
7. 平成 3 0 年度については、ダム流入量が出し平ダム 300m³/s、宇奈月ダム 400m³/s のいずれかを上回る出水があった場合、細砂通過放流を試験的に実施することができる。この場合、両ダムとも貯水位を高水位で保持したまま、出し平ダムは主に排砂ゲート、宇奈月ダムは出洪水の調節完了後、水位低下用ゲートを開ける。なお、細砂通過放流において通砂実施基準流量に達しない場合の終了は、ダム流入量及びダム下流の濁度等を勘案し、実施機関で適宜判断する。また、細砂通過放流中において通砂実施基準流量を上回る流量に達した場合には、従来の通砂に移行できるものとする。
8. シミュレーションによる検討結果では、複数回の排砂を実施しても目標排砂量全量の排出は困難である。また、3 回目以降の排砂では効率が低下し土砂の排出には効果が少ないことから、複数回排砂実施による下流環境への影響を勘案し平成 3 0 年度は 2 回の排砂を計画し、その後、通常に通砂作業に移行する。初回の排砂量はシミュレーションにて推定し、2 回目の排砂後に測量により排砂量を確認するものとするが、排砂後測量時に通砂基準流量に達する場合は、新たな土砂堆積を防止するため通砂を実施し、シミュレーションでの推定排砂量となる場合もある。なお、初回排砂後に排砂に至る出洪水が発生しなかった場合は、9 月に測量を行うものとする。

平成30年度連携排砂前の出し平ダム堆砂形状(平成29年12月時点)

(最深河床)

目標排砂量 約 1 6 1 万 m^3 (平成28年7月～平成29年12月の堆砂量)

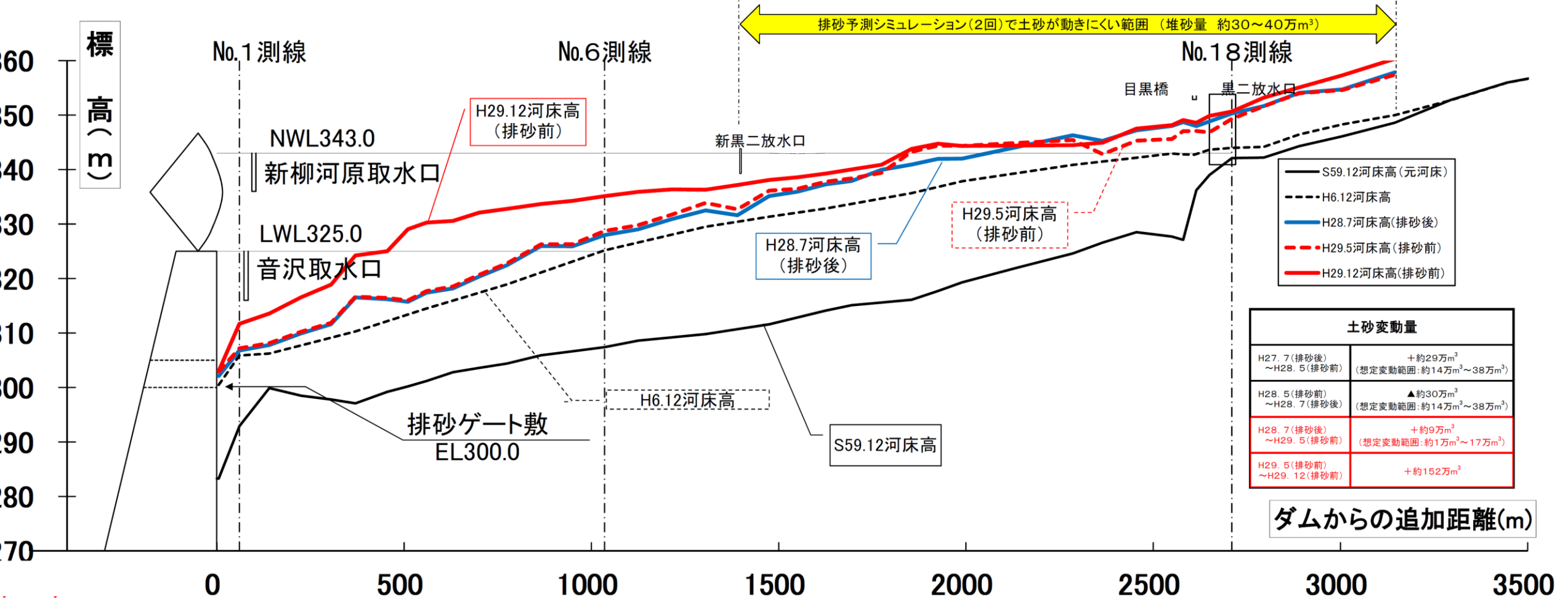
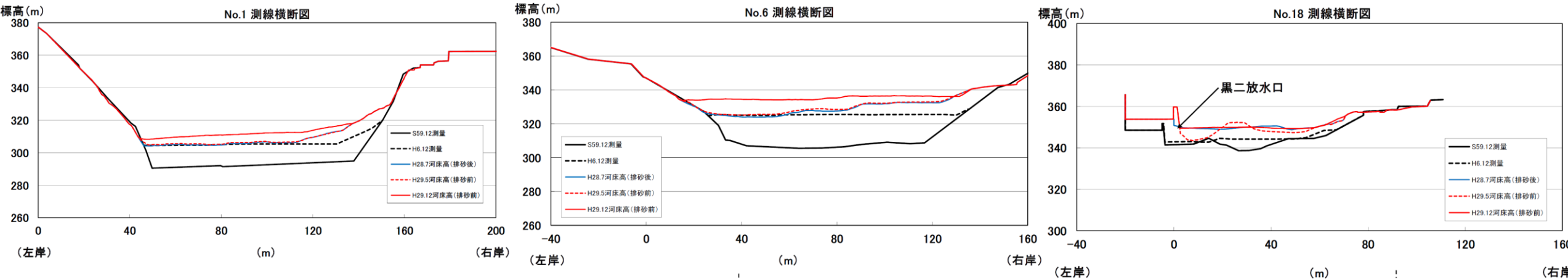
想定変動範囲 約 1 0 0 万 m^3 ～ 約 1 6 1 万 m^3



平成30年度連携排砂前の出し平ダム堆砂形状(平成29年12月時点)

(平均河床)

目標排砂量 約 1 6 1 万³m (平成28年7月～平成29年12月の堆砂量)
 想定変動範囲 約 1 0 0 万³m ～ 約 1 6 1 万³m



平成30年度 出し平ダム排砂予測(各ケ-ス自然流下12時間の排砂量)

排砂予測結果一覧

			排砂回数									
			1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
ケース1	H29.12河床で、1回目に洪水、2,3回目に出水モデル波形により排砂を実施した場合	対象波形	洪水	出水	出水							
		排砂量(万m ³)	108.7	10.3	2.2							
		累加排砂量(万m ³)	108.7	119.0	121.1							
ケース2	H29.12河床で、出水モデル波形により排砂を3回実施した場合	対象波形	出水	出水	出水							
		排砂量(万m ³)	100.3	23.5	4.5							
		累加排砂量(万m ³)	100.3	123.8	128.3							
ケース3	H29.12河床で、小出水モデル波形により排砂を10回実施した場合	対象波形	小出水	小出水	小出水	小出水	小出水	小出水	小出水	小出水	小出水	小出水
		排砂量(万m ³)	84.8	37.0	5.8	3.2	1.5	0.9	0.6	0.5	0.3	0.3
		累加排砂量(万m ³)	84.8	121.7	127.5	130.6	132.2	133.1	133.6	134.1	134.4	134.7
ケース4	H29.12河床で、1回目に出水、2～4回目に洪水モデル波形により排砂を実施した場合	対象波形	出水	洪水	洪水	洪水						
		排砂量(万m ³)	100.3	26.0	6.5	1.3						
		累加排砂量(万m ³)	100.3	126.4	132.8	134.1						
ケース5	【参考】 H29.5河床で、H29.7実測波形により排砂を実施した場合	対象波形	H29.7実測 (H2905河床)	—	—							
		排砂量(万m ³)	-28									

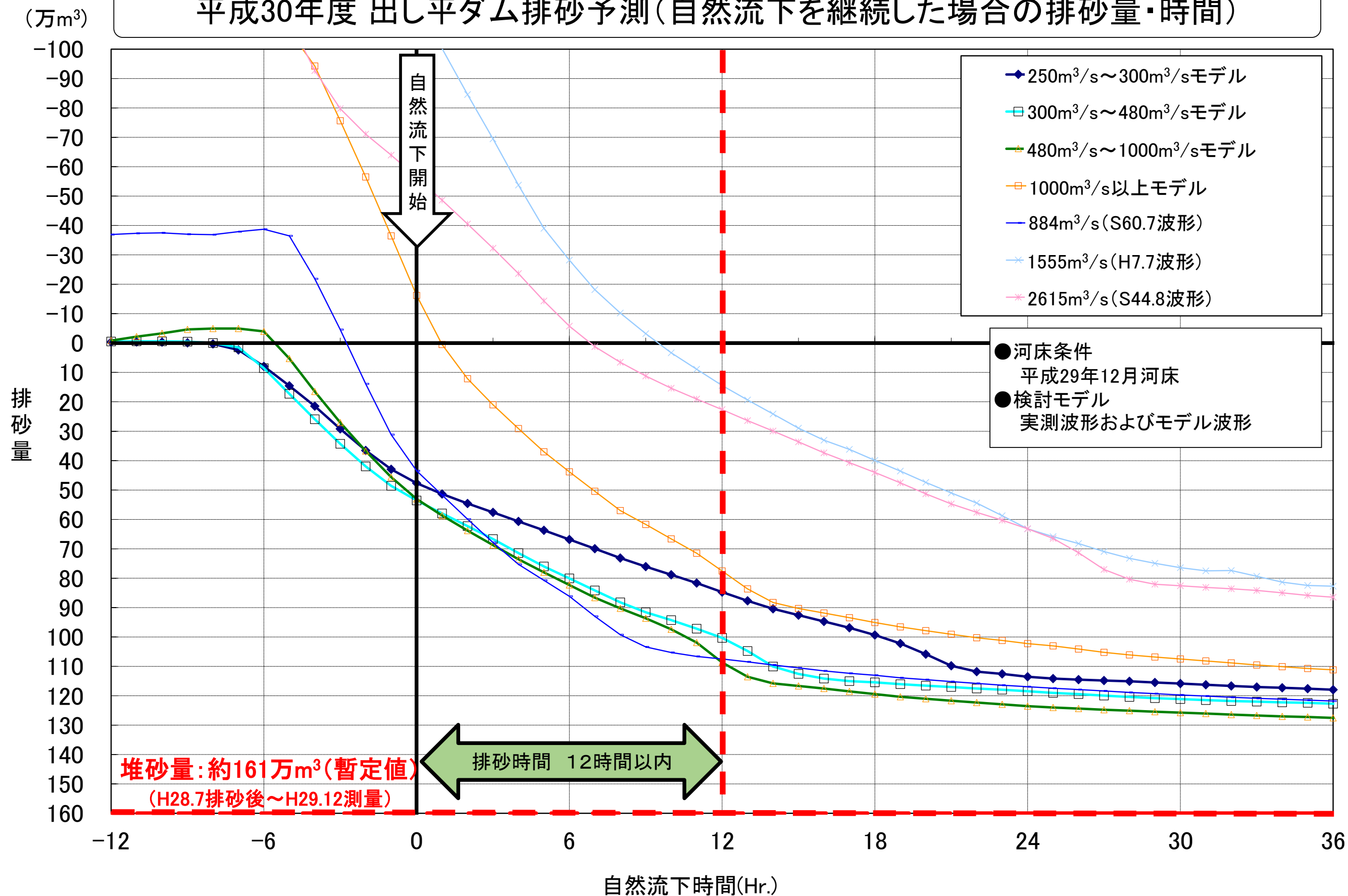
(検討モデル波形)

- 小出水 : 250m³/s～300m³/sモデル
- 出水 : 300m³/s～480m³/sモデル
- 洪水 : 480m³/s～1,000m³/sモデル

(シミュレーション条件)

- 排砂回数: 上表のとおり
- 検討モデル組合せ: 上表のとおり
- 自然流下時間: 全てのケースで12時間
- 給砂条件: 過去5年間H24-H28)平均の給砂量
- 初期河床: H29.12河床
ただし、ケース5のみH29.5河床

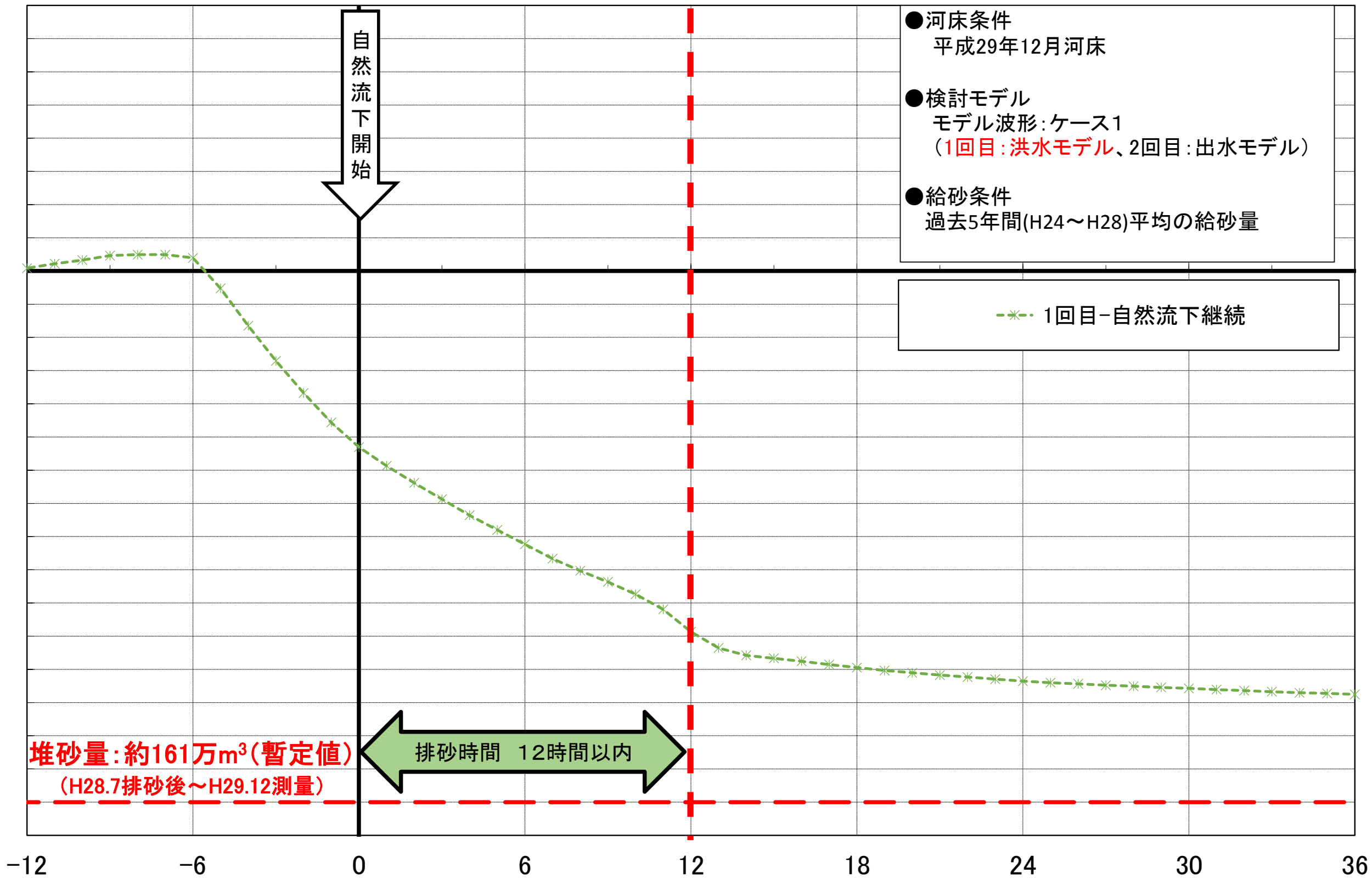
平成30年度 出し平ダム排砂予測(自然流下を継続した場合の排砂量・時間)



平成30年度 出し平ダム1回目排砂予測(自然流下毎の排砂量・時間)

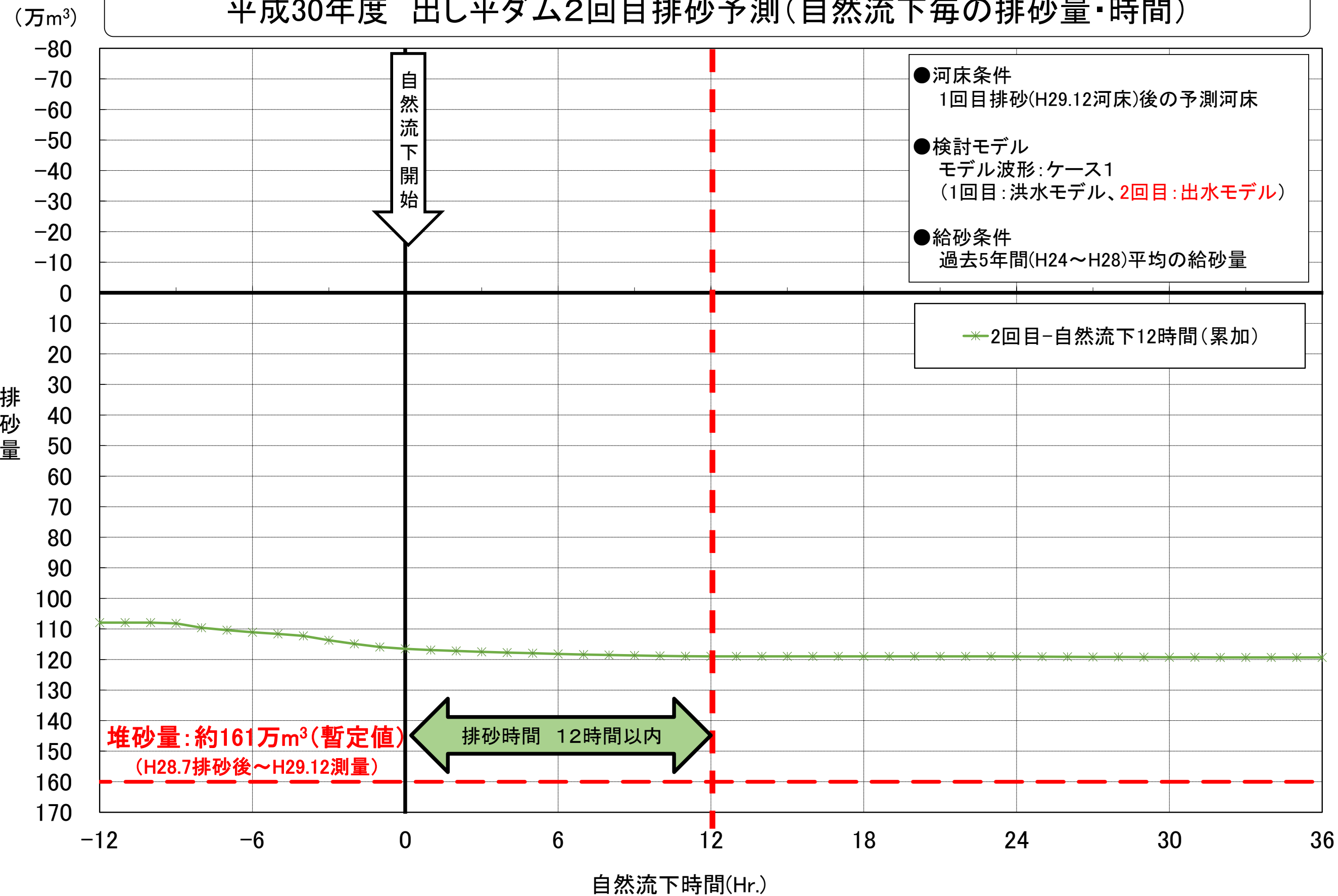
(万m³)

排砂量

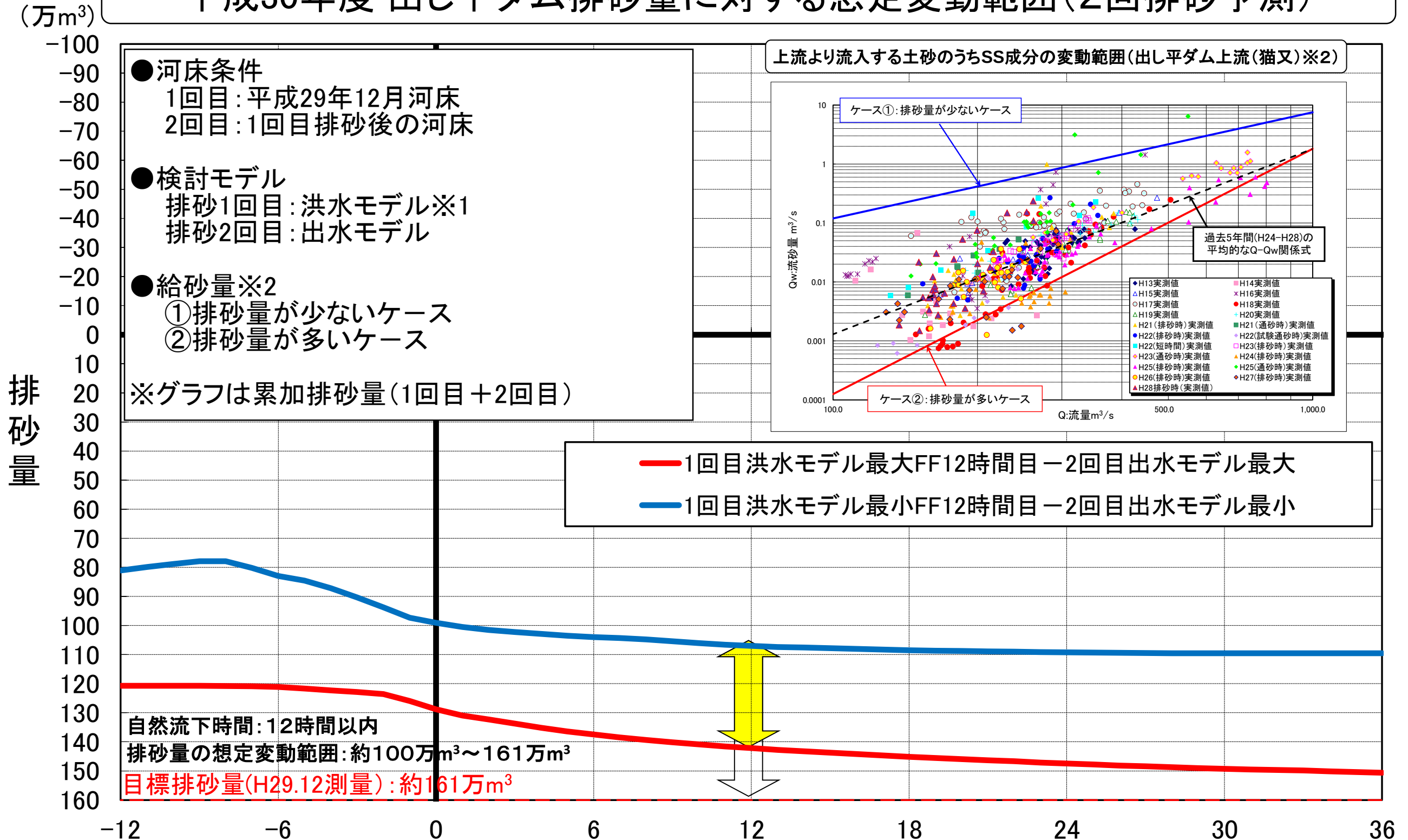


自然流下時間(Hr.)

平成30年度 出し平ダム2回目排砂予測(自然流下毎の排砂量・時間)



平成30年度 出し平ダム排砂量に対する想定変動範囲(2回排砂予測)



(備考)

※1 概ね1回／年程度の頻度で発生している出水規模。

なお、1,000 m^3/s クラス以上の大出水や、二山波形等の稀な出水は、対象としていない。

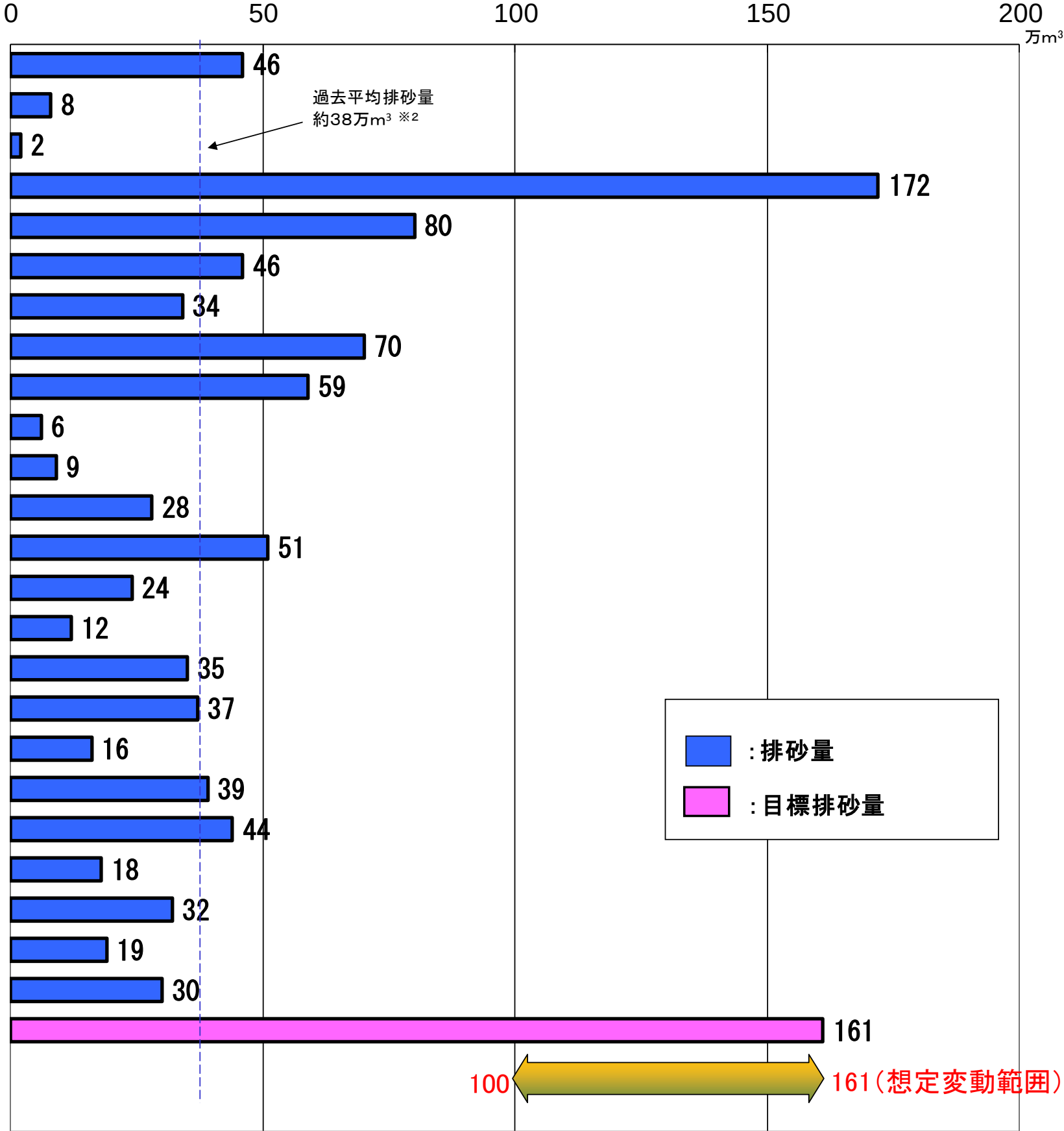
※2 限られた範囲内ではあるが、過去より計測データが得られている、上流より流入してくる土砂のうちSS成分(粒径2mm以下)に着目して、排砂量の変動範囲を推定した。

※3 想定変動範囲については、平成24年排砂時の事象を踏まえ、河床幅を考慮した算定方法に見直した。

平成30年度出し平ダム目標排砂量と過去の実績排砂量の比較

【検討中】

排砂の位置付	年	実績排砂量	累計排砂量
初回排砂	平成3年	46万m ³	46万m ³
試験排砂	平成6年	8万m ³	54万m ³
試験的排砂	平成7年7月	2万m ³	56万m ³
緊急排砂	平成7年10月	172万m ³	228万m ³
	平成8年	80万m ³	308万m ³
	平成9年	46万m ³	354万m ³
排 砂	平成10年	34万m ³	388万m ³
	平成11年	70万m ³	458万m ³
連携排砂	平成13年	59万m ³	517万m ³
連携排砂	平成14年	6万m ³	523万m ³
連携排砂	平成15年	9万m ³	532万m ³
連携排砂・通砂	平成16年	28万m ³	560万m ³
連携排砂・通砂	平成17年	51万m ³	611万m ³
連携排砂	平成18年	24万m ³	635万m ³
連携排砂	平成19年	12万m ³	647万m ³
連携排砂	平成20年	35万m ³	682万m ³
連携排砂	平成21年	37万m ³	719万m ³
連携排砂	平成22年	16万m ³	735万m ³
連携排砂	平成23年	39万m ³ ※1	774万m ³
連携排砂	平成24年	44万m ³	818万m ³
連携排砂	平成25年	18万m ³	836万m ³
連携排砂	平成26年	32万m ³	868万m ³
連携排砂	平成27年	19万m ³	887万m ³
連携排砂	平成28年	30万m ³	917万m ³
連携排砂	平成30年	目標排砂量：約161万m ³ （暫定） （平成28年7月～平成29年12月の堆砂量）	
		想定変動範囲：約100万m ³ ～約161万m ³	



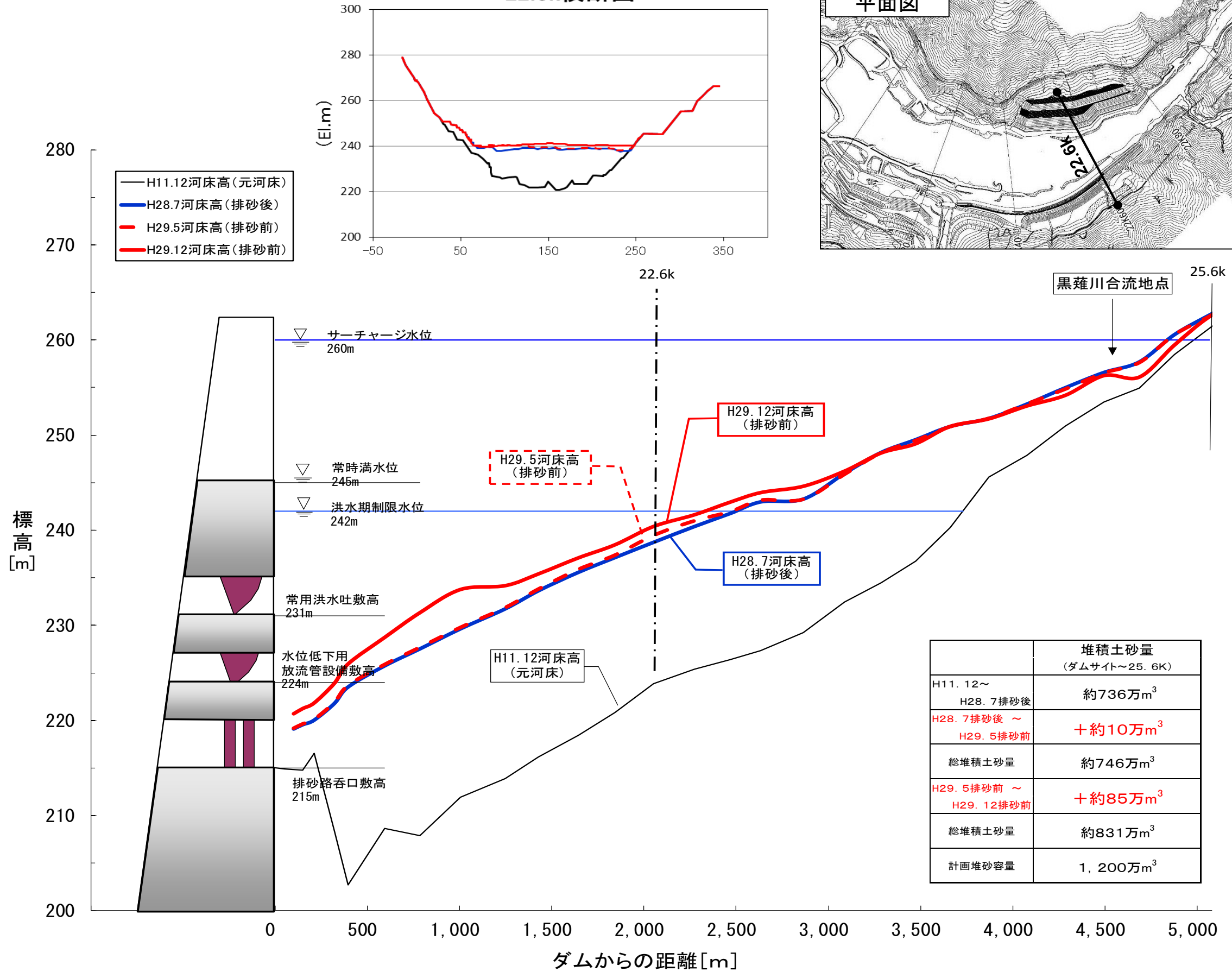
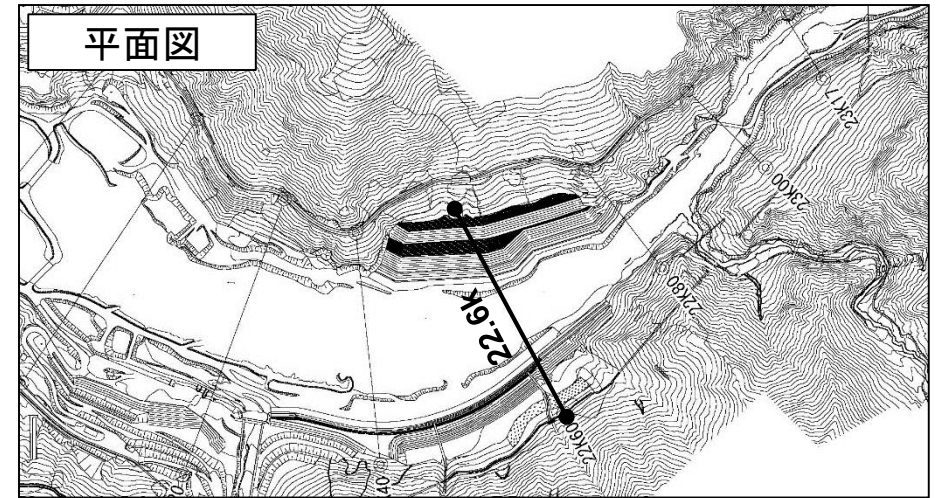
※1平成23年度の排砂量についてはシミュレーションにより算出したものである。

※2過去平均排砂量＝過去の排砂量／過去の排砂回数

宇奈月ダム堆砂形状(平成29年12月時点)

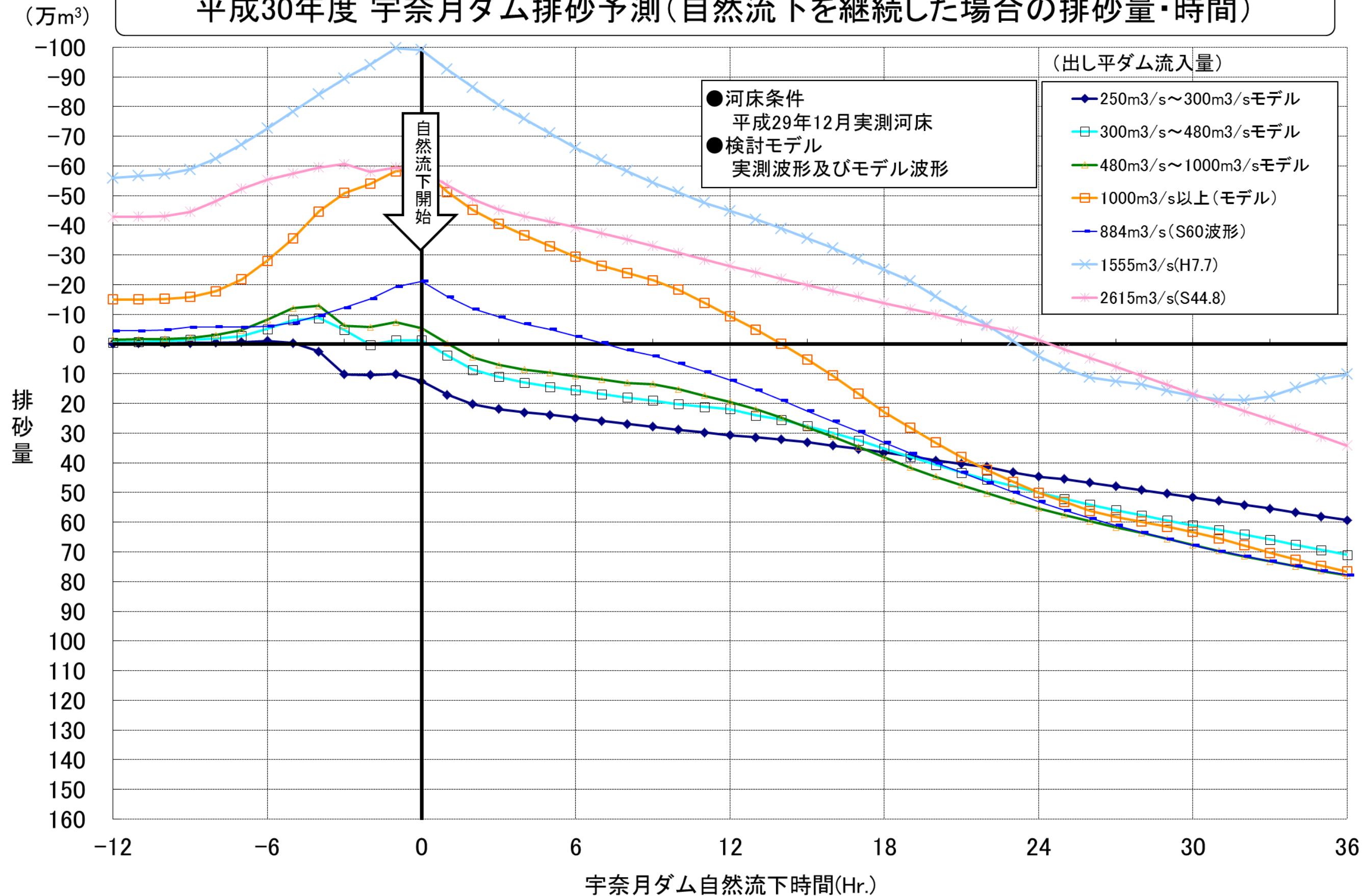
(平均河床)【検討中】

22.6k横断図

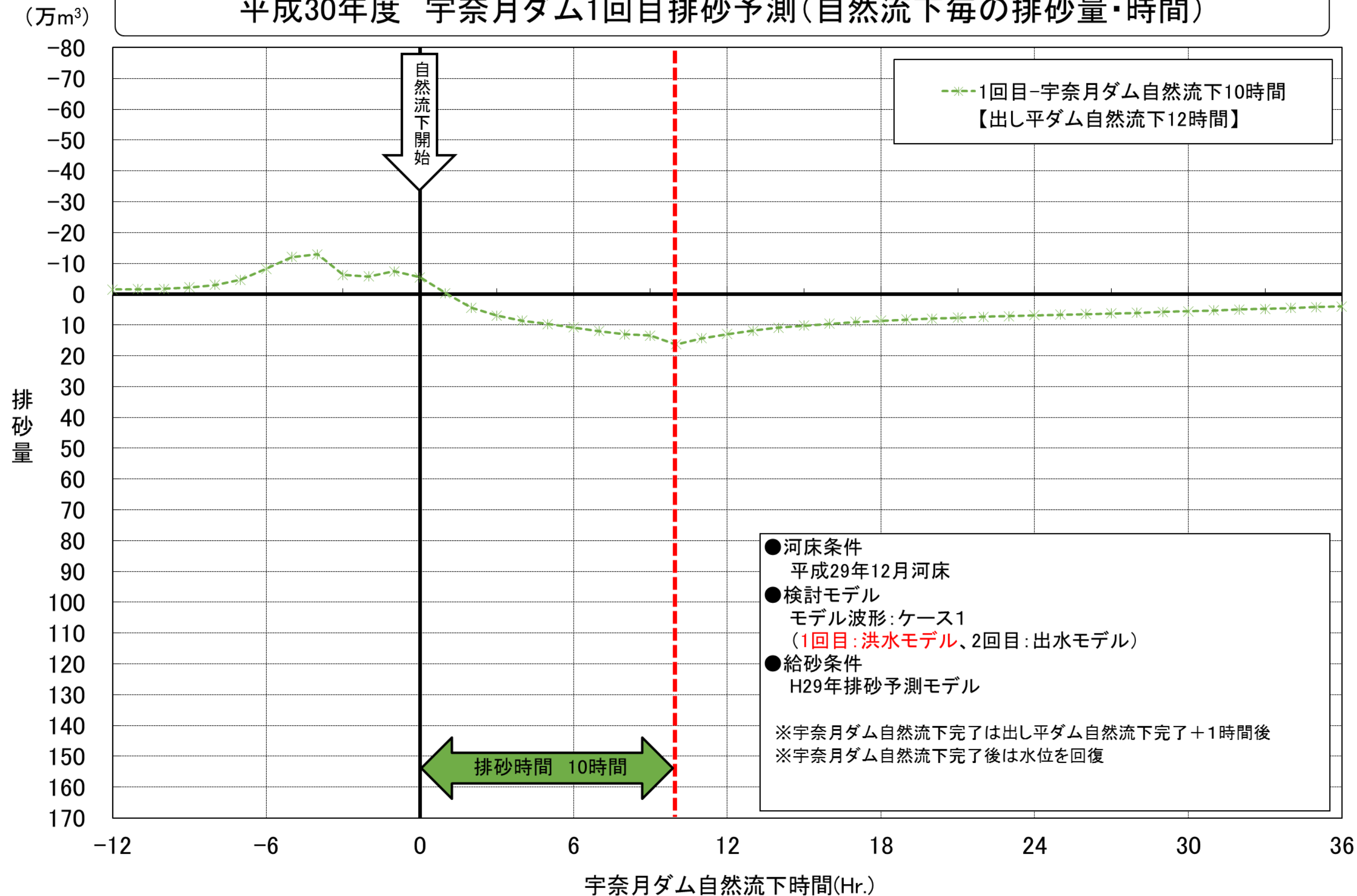


	堆積土砂量 (ダムサイト～25.6K)
H11.12～ H28.7排砂後	約736万m ³
H28.7排砂後～ H29.5排砂前	+約10万m ³
総堆積土砂量	約746万m ³
H29.5排砂前～ H29.12排砂前	+約85万m ³
総堆積土砂量	約831万m ³
計画堆砂容量	1,200万m ³

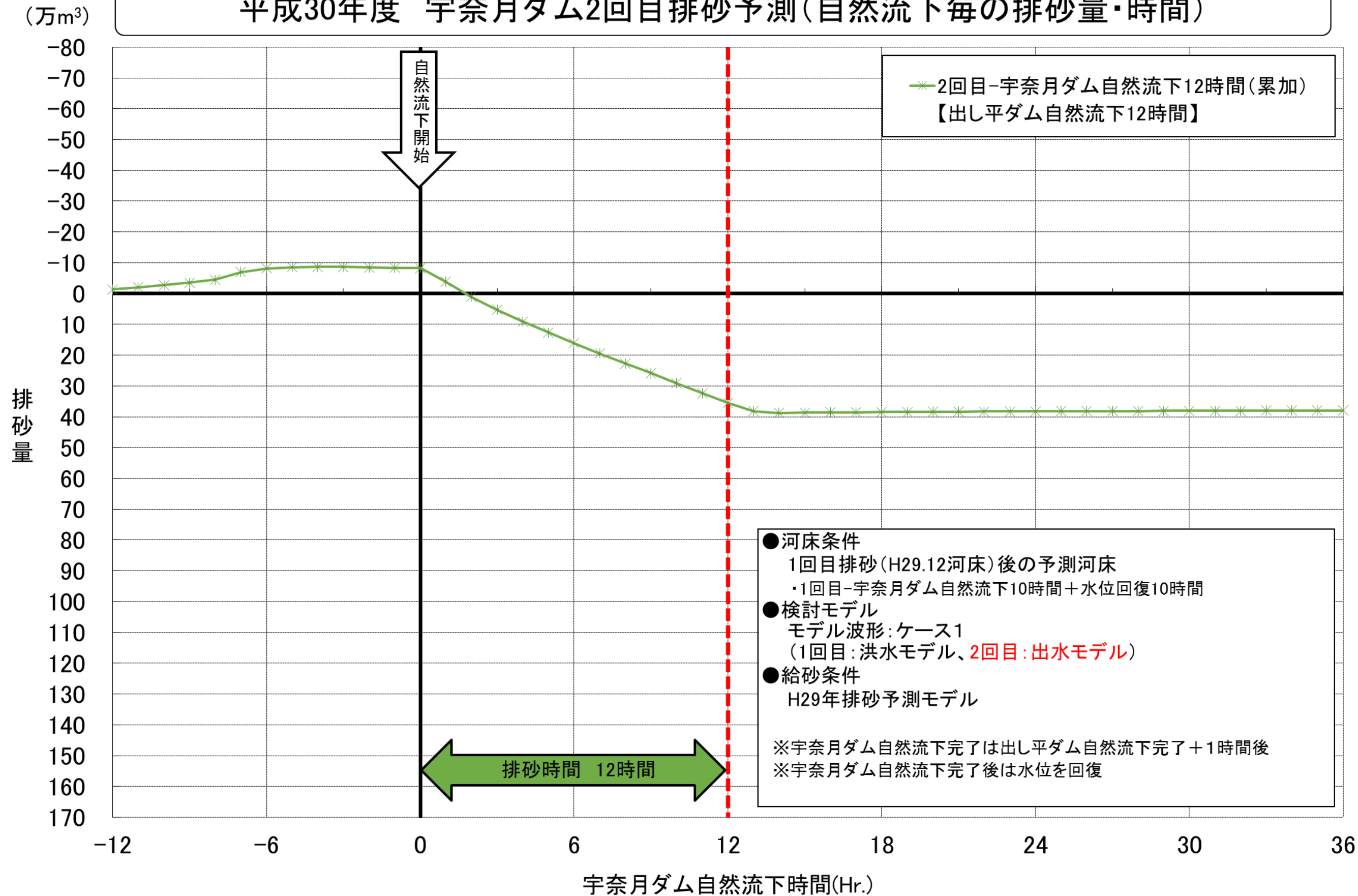
平成30年度 宇奈月ダム排砂予測(自然流下を継続した場合の排砂量・時間)



平成30年度 宇奈月ダム1回目排砂予測(自然流下毎の排砂量・時間)



平成30年度 宇奈月ダム2回目排砂予測(自然流下毎の排砂量・時間)



平成30年度連携排砂におけるSS値の予測

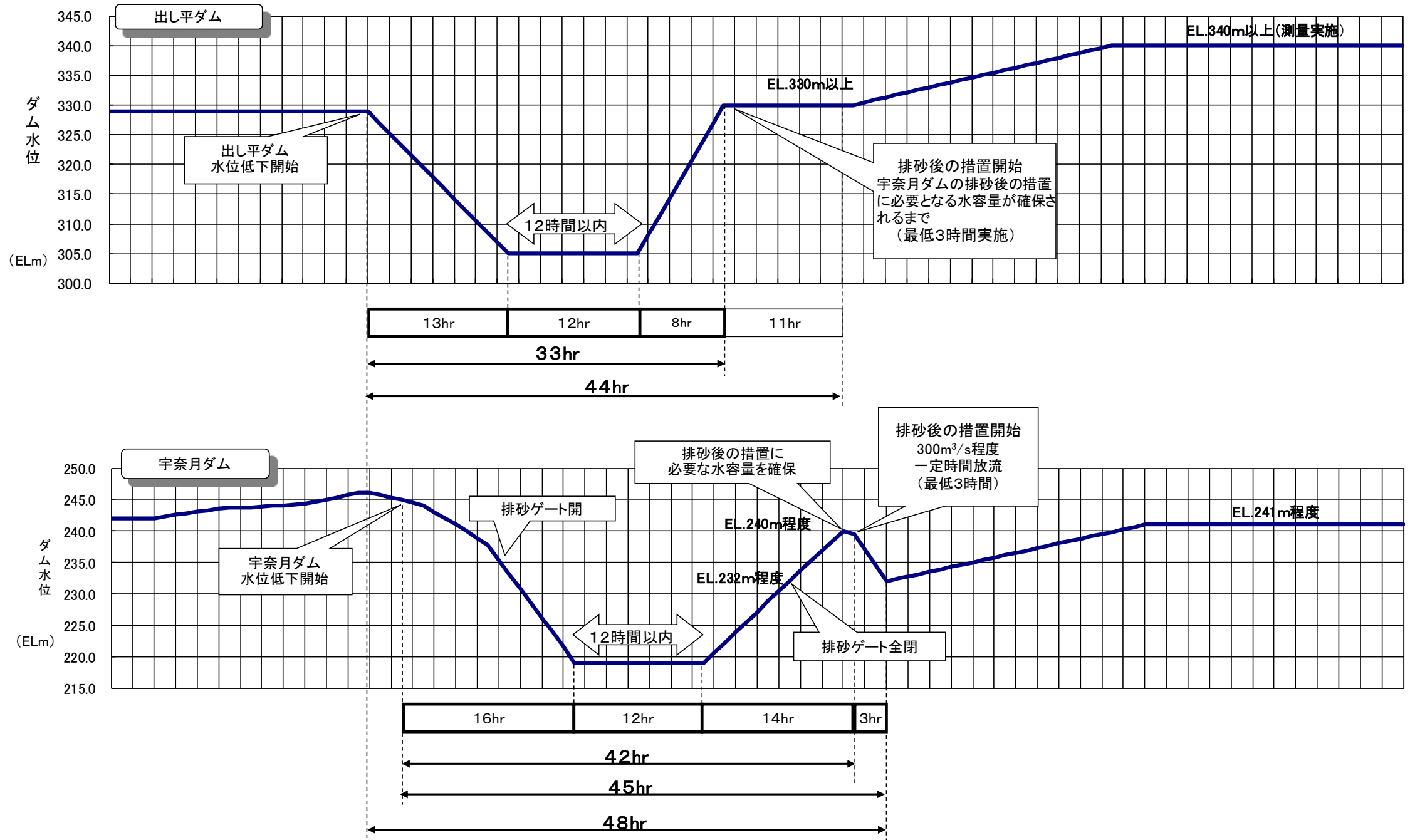
【検討中】

(単位:mg/l、上段は実績値、下段()は予測値)

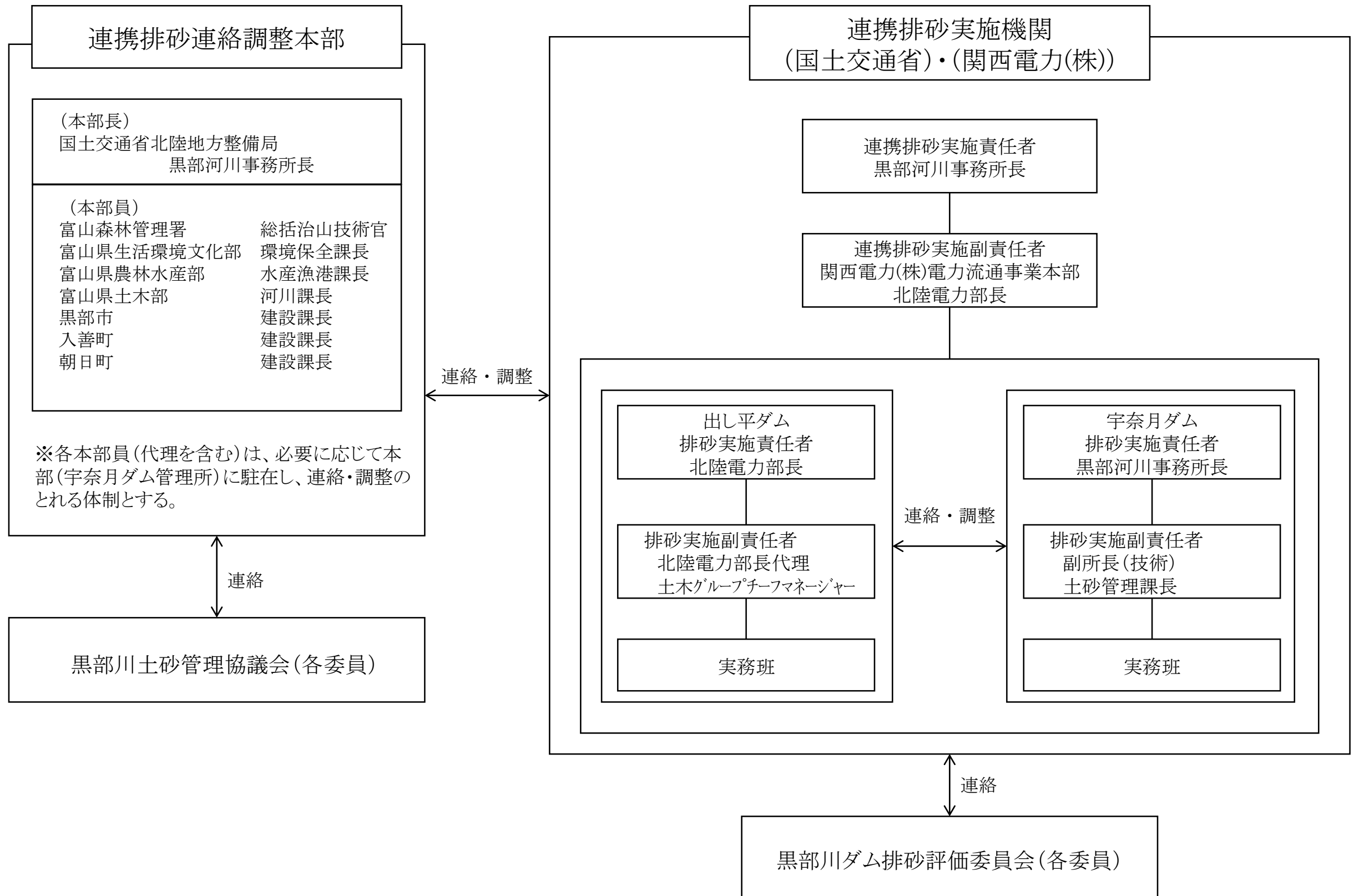
		排砂量(万m ³)		項目	河川域			海 域		備 考
		出し平ダム	宇奈月ダム		出し平ダム直下	宇奈月ダム直下	下黒部橋	C点	A点	
平成25年度	排 砂	18	(－)	最大	25,000 (48,000～110,000)	23,000 (47,000～71,000)	15,000 (4,300～12,000)	1,900 (1,100～3,300)	29 (70～210)	
				平均	6,700 (6,500～20,000)	4,000 (23,000～33,000)	3,000 (2,300～3,500)	616 (600～1,700)	14 (40～130)	
	通 砂	(－)	(－)	最大	177,000 (12,000～110,000)	50,000 (21,000～65,000)	15,000 (3,400～5,400)	2,600 (800～1,200)	21 (50～80)	
				平均	12,000 (1,600～19,000)	8,500 (9,000～30,000)	4,900 (1,700～2,200)	1,267 (350～510)	16 (30～50)	
平成26年度	排 砂	32	(－)	最大	45,000 (76,000～99,000)	77,000 (42,000～52,000)	19,000 (2,700～9,000)	220 (570～1,900)	17 (30～110)	
				平均	7,300 (14,000～20,000)	15,000 (22,000～25,000)	7,300 (1,200～4,200)	128 (250～850)	12 (20～50)	
	通 砂	未実施 (－)	未実施 (－)	最大	未実施 (8,600～87,000)	未実施 (51,000～55,000)	未実施 (1,400～2,300)	未実施 (320～520)	未実施 (30～50)	
				平均	未実施 (1,200～16,000)	未実施 (22,000～26,000)	未実施 (920～1,600)	未実施 (130～240)	未実施 (10～20)	
平成27年度	排 砂	19	(－)	最大	16,000 (52,000～84,000)	26,000 (43,000～57,000)	6,500 (5,200～9,000)	1,700 (1,300～2,300)	13 (80～140)	
				平均	4,500 (8,700～19,000)	8,800 (21,000～25,000)	3,400 (1,300～4,300)	760 (300～950)	11 (20～60)	
	通 砂	未実施 (－)	未実施 (－)	最大	未実施 (6,600～84,000)	未実施 (46,000～52,000)	未実施 (2,100～2,800)	未実施 (510～670)	未実施 (50～60)	
				平均	未実施 (1,000～16,000)	未実施 (19,000～24,000)	未実施 (1,200～1,800)	未実施 (190～300)	未実施 (20～30)	
平成28年度	排 砂	30	(－)	最大	48,000 (68,000～88,000)	42,000 (60,000～66,000)	18,000 (8,900～25,000)	82 (2,000～5,700)	16 (130～380)	
				平均	13,000 (15,000～20,000)	19,000 (30,000～34,000)	9,800 (2,000～9,400)	60 (640～2,900)	11 (50～210)	
	通 砂	未実施 (－)	未実施 (－)	最大	未実施 (7,400～86,000)	未実施 (51,000～60,000)	未実施 (1,200～2,700)	未実施 (260～570)	未実施 (20～50)	
				平均	未実施 (1,500～16,000)	未実施 (20,000～27,000)	未実施 (700～1,600)	未実施 (100～250)	未実施 (10～30)	
平成29年度	排 砂	未実施 (－)	未実施 (－)	最大	未実施 (27,000～84,000)	未実施 (43,000～48,000)	未実施 (6,600～16,000)	未実施 (2,100～5,000)	未実施 (210～510)	
				平均	未実施 (4,800～13,000)	未実施 (21,000～24,000)	未実施 (2,700～5,300)	未実施 (800～1,600)	未実施 (110～210)	
	通 砂	未実施 (－)	未実施 (－)	最大	未実施 (2,700～82,000)	未実施 (25,000～37,000)	未実施 (1,800～2,500)	未実施 (330～450)	未実施 (50～60)	
				平均	未実施 (920～12,000)	未実施 (9,600～19,000)	未実施 (710～1,200)	未実施 (250～410)	未実施 (40～60)	
平成30年度	排 砂	(161)	(－)	最大	(78,000～110,000)	(55,000～73,000)	(15,000～32,000)	(3,800～8,200)	(320～700)	左記SS予測値は、平成29年12月の測量データにより算出。なお、過年の予測と比較するため、排砂の予測は1回目排砂時の予測値、通砂の予測は、排砂2回(1回目及び2回目排砂ともに自然流下時間12時間)後に通砂を実施した場合の予測値。
				平均	(14,000～38,000)	(31,000～36,000)	(5,800～12,000)	(1,700～3,500)	(190～390)	
	通 砂	(－)	(－)	最大	(3,200～81,000)	(40,000～42,000)	(3,300～4,100)	(660～830)	(70～90)	
				平均	(900～8,900)	(16,000～22,000)	(1,300～1,900)	(390～580)	(40～70)	

○海域における平均SS値の実績は、全観測データの平均値である。また、SS値について、通砂を実施していない年は「未実施」、時化等により観測できなかった場合は「未計測」としている。

平成30年度連携排砂における各ダムの運用について(模式図) (過去実績(出し平ダム流入量250m³/s以上)の計算結果に基づく平均的な運用)



平成30年度 排砂・通砂時の実施体制



【参考】過年度排砂計画及び実績一覧表（1／4）

回 数 項 目		H3年		H6年		H7年		H8年		H9年		H10年		H11年		H12年		H13年		H14年		H15年		H16年		備 考						
		第1回排砂		第2回排砂		第3回排砂		第4回排砂		第5回排砂		第6回排砂		第7回排砂		第8回排砂		－		第9回排砂		－		第10回排砂			第11回排砂		第12回排砂		－	
		初回排砂		試験排砂		試験的排砂		緊急排砂①		緊急排砂②		緊急排砂③		恒常排砂①		恒常排砂②		土砂変質 進行抑制策		連携排砂①		連携通砂		連携排砂②			連携排砂③		連携排砂④		連携通砂	
目的 及び経緯		ダム完成から6年 が経過し、発電へ の支障を懸念さ れたため		環境影響の評価 検討のための基 礎データ取得の ため		提言に伴い自然 出水時の調査 データ取得のため		H7.7大出水の災 害復旧、猫又地 区の河床を低下 させるため		H7.7大出水の災害復旧、土砂災害 の再発防止のため		河川域の土砂災害に対する安全確 保とダム機能を維持していくため		連携排砂の計画 をしていたが、排 砂未実施のため 急遽抑制策を実 施		宇奈月ダム、出し平ダム施設の機能維持を確保するとともに上流猫又地区の安全度の維持並びに黒部川水系 全体の総合土砂管理のため																
意志決定機関 （事 務 局）		関西電力 単独実施		検討委員会 （富山県）		調査委員会 （富山県）		災害復旧対策会議（富山県）				協議会・委員会 （建設省<H13より国交省>・関西電力）														各会議体は、略称を記載						
排砂 時期	計 画	－		2月後半		6～9月		10月の早い段階		6～9月		6～8月		6～8月 （～9月）		7～8月		6～8月														
	実 績	H3.12.11 ～12.13		H6.2.27 ～2.28		H7.7.8 ～7.10		H7.10.27 ～10.31		H8.6.27 ～7.1		H9.7.9 ～7.13		H10.6.28 ～6.30		H11.9.15 ～9.17		H12.9.3 ～9.4		H13.6.19 ～6.23		H13.6.30 ～7.3		H14.7.13 ～7.16		H15.6.28 ～7.1		H16.7.16 ～7.18		H16.7.18 ～7.20		
河 川 流 況 （排砂流量基 準）		黒部ダムより 80m³/s供給		黒部ダムより 40m³/s供給		出洪水時		黒部ダムより 200m³/s供給		出洪水時(Qp≥300m³/s)				黒四PSより 72m³/s供給		出洪水時 (Qp≥300m³/s、融雪・梅雨時期Qp≥250m³/s)																
出洪水の出し平 ダムピーク流入量		－		－		504.0m³/s		－		1,052m³/s		304m³/s		318m³/s		341m³/s		－		333.5m³/s		491.2m³/s		362.5m³/s		777.4m³/s		356.0m³/s		1,152.0m³/s		出し平ダム自然流下開始 前のピーク流入量
対策実施方式		自然流下方式（フリーフロー）				パイプフロー (水位低下せず)		自然流下方式（フリーフロー）						－		自然流下方式（フリーフロー）																
自然 流下 時間 (出し平ダム)	計 画	7日間		1h		－		17h		48h		48h		24h		※) 36h[24h]		24h		24h		12h		12h		12h		15h		宇奈月ダム自然 流下時間内		
	実 績	30h		1h				12h		29h		48h		24h		24h		－		26h		12h		12h		15h		16:25		10:31		
追加放流時間 (出し平ダム)		－				48h (200m³/s)		48h (自然流入)		24h (自然流入)				－		24h (自然流入)		12h (自然流入)		24h (自然流入)												
排砂量	計 画	60万m³		5万m³		5万m³		190万m³		95万m³		50万m³		35万m³		※) 90万m³[75万m]		20万m³		58万m³		－		8万m³		8万m³		17万m³ (33万m³)		－		(5月測量結果を持って最 終目標排砂量とする)
	実 績	46万m³		8万m³		2万m³		172万m³		80万m³		46万m³		34万m³		70万m³		－		59万m³		－		6万m³		9万m³		28万m³		－		
環境影響 (出し平ダム)	SS 最大	11,400		150,000		2,080		103,500		56,800		93,200		44,700		161,000		1,400		90,000		29,000		22,000		69,000		42,000		16,000		観測位置：出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最大値(mg/l)
	DO 最小	10.6		0.0		11.0		8.8		10.7		9.8		8.2		6.0		9.9		7.2		11.1		9.5		11.8		9.3		10.6		観測位置：出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最小値(mg/l)
そ の 他						・黒部川大出水。 (出し平ダムピーク 流入量 1,555m³/s)				・緊急排砂効果 の確保排砂(通 砂)を計画。 ・ダム水位が高い 段階から排砂ゲ ートの先開け操 作に変更。				・通砂を計画。 ・排砂期間延長に より9月の台風で 実施。 ※) 目標排砂量を 75万mに変更。		・H12.6.23出し平ダムピー ク流入量507m³/sを記 録、排砂期間(7/10～ 8/31)から外れており実 施できず。 ・この年は宇奈月ダム試 験湛水(2/28～6/中 旬)、及び初の連携排砂 前の海域底質調査(初 回)の為、排砂期間は 7/10開始。		・排砂実施基準 の弾力的運用。 ・国内初の連携 排砂の実施。		・国内初の連携 通砂の実施。				・出水時排砂とし て2番目の大規模 洪水。		・宇奈月ダム直下 のフラッシュ放流を 新規提案(未実 施)。 ・5月測量実施。		排砂中に洪水発 生。 連続的に通砂実 施。				

【参考】過年度排砂計画及び実績一覧表（2／4）

項 目	回 数	H17年			H18年			H19年		H20年	H21年		H22年			備 考		
		第13回排砂	－		第14回排砂	－			第15回排砂	－	第16回排砂	第17回排砂	－	第18回排砂	－			
		連携排砂⑤	連携通砂	連携通砂	連携排砂⑥	連携試験通砂	連携通砂	連携通砂	連携排砂⑦	連携通砂	連携排砂⑧	連携排砂⑨	連携通砂	連携排砂⑩	連携試験通砂		短時間 集中豪雨対策	
目的 及び経緯		宇奈月ダム、出し平ダム施設の機能維持を確保するとともに上流猫又地区の安全度の維持並びに黒部川水系全体の総合土砂管理のため																
意志決定機関 （事 務 局）		協議会・委員会 （建設省<H13より国交省>・関西電力）															各会議体は、略称を記載	
排砂 時期	計 画	6～8月																
	実 績	H17.6.27 ～6.30	H17.6.30 ～7.5	H17.7.12 ～7.14	H18.7.1 ～7.3	H18.7.13 ～7.15	H18.7.15 ～7.19	H18.7.19 ～7.25	H19.6.29 ～7.2	H19.8.22 ～8.23	H20.6.29 ～7.2	H21.7.9 ～7.10	H21.7.18 ～7.19	H22.6.27 ～6.28	H22.7.12 ～7.13	H22.8.12 ～8.13		
河 川 流 況 （排砂流量基 準）		出洪水時 （Qp≥300m³/s、融雪・梅雨時期Qp≥250m³/s）																
出洪水の出し平 ダムピーク流入量		957.8m³/s	835.4m³/s	790.0m³/s	308.3m³/s	378.3m³/s	685.6m³/s	529.5m³/s	449.9m³/s	612.1m³/s	439.8m³/s	320.6m³/s (389.6m³/s)	525.2m³/s	365.5m³/s	350.7m³/s	363.2m³/s	出し平ダム自然流下開始前の ピーク流入量 下段()は、自然流下完了後の ピーク流入量	
対策実施方式		自然流下方式（フリーフロー）															高水位を 保ったまま放流	
自然 流下 時間 （出し平ダム）	計 画	12h	宇奈月ダム自然 流下時間内	宇奈月ダム自然 流下時間内	12h	宇奈月ダム自然 流下時間内	宇奈月ダム自然 流下時間内	宇奈月ダム自然 流下時間内	12h以内	宇奈月ダム自然 流下時間内	12h以内	12h以内	宇奈月ダム自然 流下時間内	12h以内	宇奈月ダム自然 流下時間内	－		
	実 績	12h	11:20	12h	12h	4h	12h	12h	2h	－※	8h	7:10	3:00	3:00	0:50	－		
追加放流時間 （出し平ダム）		24h	12h	12h	24h	12h	12h	12h	24h	－	24h	宇奈月ダムの排砂後の措置に必要な水容量が確保されるまで				－		
排砂量	計 画	48万m³ (54万m³)	－	－	3万m³ (10万m³)	－	－	－	0.3万m³ (6万m³)	－	26万m³[20～30万m³] (32万m³[27～36万m³])	30万m³[25～35万m³] (37万m³[31～41万m³])	－	10万m³[5～15万m³] (14万m³[8～18万m³])	－	－	5月測量結果を持って最終目 標排砂量とする。 [変動範囲] 上段:12月測量(暫定値) 下段:5月測量(確定値)	
	実 績	51万m³	－	－	24万m³	－				12万m³	－	35万m³	37万m³	－	16万m³	－		
環境影響 （出し平ダム）	SS 最大	47,000	90,000	40,000	27,000	12,000	27,000	7,400	25,000	－	62,000	50,000	17,000	52,000	6,000	－	観測位置:出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最大値(mg/l)	
	DO 最小	10.4	11.3	11.3	9.4	11.4	11.5	10.6	11.2	－	11.0	10.3	10.0	10.6	10.5	－	観測位置:出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最小値(mg/l)	
そ の 他		・実施計画にて、 5月の測量により 目標排砂量を決定する旨を記載。			・連携試験通砂 を導入。	連携試験通砂を 実施したが、測量できず効果の 把握が出来ず。			・5月測量以降に 出水があり再度 測量を実施し、目標排砂量を変更。 ※8/22 19:24 Qmax=612.1m³/s 確認後、8/23 5:00 水位低下中において、出し平ダム流入 量が中止基準 130m³/sを下回り、 連携通砂中止。	・短時間集中豪 雨が8月に多く発生した。 ・排砂量および変動範囲を記載。	・短時間集中豪 雨対策を導入。 ・中止基準に基づいて自然流下中に排砂を中 断。			・四年ぶりの連携 試験通砂を実施するとともに、効果検証を実施することができた。	・平成21年度には実施できなかったが、平成 22年度に初めて試行を実施することができた。			

【参考】過年度排砂計画及び実績一覧表（3／4）

項 目	回 数	H23年							H24年	H25年			H26年	H27年			H28年	備 考	
		第19回排砂	－							第20回排砂	第21回排砂	－	－	第22回排砂	第23回排砂	－	第24回排砂		
		連携排砂⑪	連携通砂	細砂通過放流①	細砂通過放流②	細砂通過放流③	細砂通過放流④	細砂通過放流⑤	細砂通過放流⑥	連携排砂⑫	連携排砂⑬	連携通砂	細砂通過放流	連携排砂⑭	連携排砂⑮	細砂通過放流①	連携排砂⑯		
目的 及び経緯		宇奈月ダム、出し平ダム施設の機能維持を確保するとともに上流猫又地区の安全度の維持並びに黒部川水系全体の総合土砂管理のため																	
意志決定機関 （事 務 局）		協議会・委員会 （建設省<H13より国交省>・関西電力）																	各会議体は、略称を記載
排砂 時期	計 画	6～8月																	
	実 績	H23.6.23 ～6.24	H23.6.24 ～6.26	H23.6.28	H23.6.29	H23.7.4	H23.7.8	H23.7.28	H23.7.29	H24.6.19～21	H25.6.19～22	H25.8.23～25	H25.8.30～31	H26.7.14～16	H27.7.1～3	H27.7.23～24	H28.6.25～27		
河 川 流 況 （排砂流量基 準）		出洪水時 （Qp≧300m ³ /s、融雪・梅雨時期Qp≧250m ³ /s）																	
出洪水の出し平 ダムピーク流入量		347.0m ³ /s	763.4m ³ /s	331.6m ³ /s	321.1m ³ /s	370.0m ³ /s	314.4m ³ /s	351.4m ³ /s	314.0m ³ /s	275.9m ³ /s	848.2m ³ /s	848.0m ³ /s	308.2m ³ /s	289.3m ³ /s	302.8m ³ /s	342.9m ³ /s	295.8m ³ /s	出し平ダム自然流下開始 前のピーク流入量	
対策実施方式		自然流下方式（フリーフロー）			高水位を 保ったまま放流					自然流下方式 （フリーフロー）			高水位を 保ったまま放流	自然流下方式 （フリーフロー）		高水位を 保ったまま放流	自然流下方式 （フリーフロー）		
自 然 流 下 時 間 （出し平ダム）	計 画	12h	宇奈月ダム自然 流下終了まで	－	－	－	－	－	－	12h	12h	宇奈月ダム自然 流下終了まで	－	12h	12h	－	12h		
	実 績	6h	6h	－	－	－	－	－	－	12h	12h	6h	－	10h	8. 5h	－	11. 9h		
追加放流時間 （出し平ダム）		宇奈月ダムの排砂 後の措置に必要と なる水容量が確保 されるまで	宇奈月ダムの排砂 後の措置に必要と なる水容量が確保 されるまで	－	－	－	－	－	－	宇奈月ダムの排砂後の措置に必要となる水容量が確 保されるまで			－	宇奈月ダムの排砂後の措置に必要 となる水容量が確保されるまで		－	宇奈月ダムの排砂 後の措置に必要と なる水容量が確保 されるまで		
排砂量	計 画	20万m ³ [14～26万m ³] （45万m ³ [36～48万 m ³]	－	－	－	－	－	－	－	56万m ³ [48～61万m ³] （61万m ³ [49～65万 m ³]	7万m ³ [1～24万m ³] （14万m ³ [7～31万m ³]	－	－	28万m ³ [15～39万m ³] （32万m ³ [15～43万m ³]	9万m ³ [1～19万m ³] （16万m ³ [6～27万m ³]	－	12万m ³ [1～22万m ³] （29万m ³ [14～38万m ³]	5月測量結果を持って最終目 標排砂量とする。 [変動範囲] 上段:12月測量（暫定値） 下段:5月測量（確定値）	
	実 績	39万m ³	－	－	－	－	－	－	－	44万m ³	18万m ³	－	－	32万m ³	19万m ³	－	30万m ³		
環 境 影 響 （出し平ダム）	SS 最 大	47,000	30,000	－	－	－	－	－	－	84,000	25,000	※177000	－	45,000	16,000	－	48,000	観測位置: 出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最大値(mg/l)	
	DO 最 小	11.6	11.6	－	－	－	－	－	－	10.4	11.4	9.8	－	10.7	11.0	－	10.0	観測位置: 出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最小値(mg/l)	
そ の 他		・5月測量以降に出水 があり再度測量を実 施し、目標排砂量を 変更。 ・排砂量は、連携排 砂、通砂が連続し、測 量ができなかったた めシミュレーション値	・通砂による排砂 量はシミュレー ション値	・平成22年度に実施 した8月限定の短時 間集中豪雨対策を梅 雨時期(6月～7月)も 試行実施。名称を細 砂通過放流に変更 ・細砂通過放流による 排砂量は、シミュレー ション値	・平成23年度の排砂 量を確定する測量を 第2回細砂通過放流 実施後に実施。 ・細砂通過放流による 排砂量は、シミュレー ション値						・平成24年度の連携 排砂において、想定 変動範囲を逸脱した ため、流量と給砂量 に加え、川幅を考慮し た想定変動範囲に変 更。	※通砂時においてSS 値が既往最大値を上 回ったが、集中豪雨 により出し平ダム上 流域の河道や渓谷か らの土砂流入が例年 に比べ多かったこと によるもの。							

【参考】過年度排砂計画及び実績一覧表（４／４）

項 目	回 数	H29年														備 考
		—	—													
		連携排砂(中止)	土砂変質 進行抑制策													
目的 及び経緯		宇奈月ダム、出し平ダム 施設の機能維持を確保す るとともに上流猫又地区の 安全度の維持並びに黒部 川水系全体の総合土砂管 理のため	連携排砂の計画をして いたが、排砂未実施の ため抑制策を実施 のため													
意志決定機関 (事 務 局)		協議会・委員会 (建設省<H13より国交省>・関西電力)														各会議体は、略称を記載
排砂 時期	計 画	6～8月	9月													
	実 績	H29.7.1 ～7.7	H29.9.1													
河 川 流 況 (排砂流量基 準)		出洪水時 (Qp≧300m ³ /s、 融雪・梅雨時期Qp≧250m ³ /s)														
出洪水の出し平 ダムピーク流入量		1,074.0m ³ /s	—													出し平ダム自然流下開始 前のピーク流入量
対策実施方式		自然流下方式 (フリーフロー)	—													
自然 流下 時間 (出し平ダム)	計 画	12h	—													
	実 績	—	—													
追加放流時間 (出し平ダム)		宇奈月ダムの排砂後の 措置に必要となる水容 量が確保されるまで	—													
排砂量	計 画	8万 m ³ [1～16万 m ³] (9万 m ³ [1～17万 m ³])	—													5月測量結果を持って最終目 標排砂量とする。 [変動範囲] 上段:12月測量(暫定値) 下段:5月測量(確定値)
	実 績	—	—													
環境影響 (出し平ダム)	SS 最大	6,100	1,660													観測位置:出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最大値(mg/l)
	DO 最小	10.8	10.0													観測位置:出し平ダム直下 排砂ゲート開における 観測最小値(mg/l)
そ の 他		H29.7.4出し平ダム上流 猫又地区で発見された 油類を含む工事用機材 流出事故対応に時間を 要するため、連携排砂中 止を決定。	7/4に発生した油類を含む工 事資機材流出事故に伴う油 等の回収作業(8/1完了)、な らびに出し平ダム調整池や 下流河川に漂着した流木回 収(8/17完了)状況を関係機 関、関係団体へ説明し、そ の後、排砂実施条件を満た す出洪水が発生しなかった ため実施。													

【参考】宇奈月ダムの治水容量

